

I - A - 10

当帰芍薬散の妊娠 SHR 胎盤血流への効果

桑名病院^{a)}，新潟大・一内^{b)}，同・産婦^{c)}

○渡辺賢一^{a)}，鈴木 勲^{b)}，柴田 昭^{b)}，丸山晋司^{c)}

目 的

妊娠中毒症や胎児発育不全に対する当帰芍薬散の効果を検討するため，高血圧を合併した妊娠ラットに本剤を投与し胎盤血流，血圧などを測定した。

対象と方法

妊娠した自然発症高血圧ラット（SHR）に当帰芍薬散エキスを 800 mg/kg ／日を連日投与し，母獣血圧（尾動脈血圧計），胎盤血流量（電解式水素クリアランス組織血流計），胎仔体重を無投薬群と比較検討した。

結 果

- (1) 妊娠中の収縮期血圧は投薬にても不変。
- (2) 妊娠20日目胎仔体重は投薬群で高値を示した。
- (3) 妊娠20日目胎盤血流は投薬群で高値を示した。

考 察

当帰芍薬散投与により著明な降圧作用はみられないにもかかわらず，胎仔体重と胎盤血流の増加がみられた。当帰芍薬散は駆瘀血作用や血液粘度低下作用があり，微小循環を改善すると考えられている。構成6種生薬の中でどれが作用するか問題であるが，芍薬の鎮痙，緊張改善作用，茯苓の水分代謝調節作用などバランス良く作用した結果と考えられる。

結 論

妊娠 SHR に当帰芍薬散を投与し，胎仔重量と胎盤血流量の増加がみられた。妊娠中毒症の子宮内胎児発育不全予防に有用と思われた。